

教育環境整備の検討について（走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会）

走水・馬堀地域における課題
1 馬堀中学校区にある 3 つの小学校（走水小学校・馬堀小学校・望洋小学校）の小規模化が進んでいる。 2 特に走水小学校は児童数が 48 人と市内で最も小規模であり、隣接する馬堀小学校も単学級が存在する小規模校で、今後も児童数、学級数の減少が見込まれる。 3 望洋小学校も学区内の大規模開発から 20 年が経過した現在 11 学級であり、令和 10 年度（2028 年度）には 9 学級となることが見込まれ、将来的には望洋小学校も含めた馬堀中学校全体で小中一貫教育の観点も踏まえた学校の再配置を検討する必要がある。

案	案の考え方	案に対する検討事項
案 1（事務局提案） 走水小学校区の全区域を馬堀小学校区に編入する	走水小学校の小規模化が今後も進むことを踏まえ、同小学校区内の全区域を馬堀小学校区に編入してはどうか。	○通学路 ・走水小学校区の通学距離が、最大 3 キロとなる。また、坂道や雨・強風など距離だけでは判断できない不安がある。
案 1（参考） （事務局提案） 走水小学校区の全区域を鴨居小学校区に編入する	走水小学校の小規模化が今後も進むことを踏まえ、同小学校区内の全区域を鴨居小学校区に編入してはどうか。	○通学路 ・走水小学校区の通学距離が、最大 3.8 キロとなる。 ○学区 ・小中一貫教育の観点から、走水地域を馬堀中学校区から鴨居中学校区へ変更する必要がある。
案 2（委員意見） 走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じてはどうか。	自然豊かで子どもを育てるには他の学校では経験できない環境を走水小学校は有している。 また、小学校がなくなることさらに地域の過疎化等に拍車がかかる。 小規模な学校運営について、科学的な根拠がなく現状を見ている中では、教育委員会の説明にあるようなデメリットは感じられない。	○小規模化 ・今後さらに小規模化が進んでいくことが予想され、学校規模の適正化や小規模の課題に対する方策を検討する必要がある。